



楽々亭通信

第 31 号
令和5年5月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

4月の楽々亭を 開催いたしました

本願寺派布教使

安堂芳雅

■母と娘

すがすがしい季節となりました。

こんにちは、安堂です。

■五月の第二、日曜日

一人のアメリカ人女性が、亡くなった母親のために、教会で“白いカーネーション”を参列者に配ったことから「母の日」が始まったそうです。

そして、日本でも世界大戦後アメリカに倣い、五月の第二日曜日を「母の日」と決め、赤いカーネーション”を贈るようになりました。



あれ？ 赤いカーネーション？

そうですね、花の色が白から赤に変わっています。

調べてみると、赤いカーネーションの、日本の花言葉は「母への愛」でした。

なるほど！、日頃の感謝の言葉に添えて贈る花に、これはぴったりですね。

■私の母の日

**己が身の
誕生の日は 母 苦難の日なり**

薬師寺の前管主、高田好胤師の言葉です。

いのちを賭けて、母は子を産みます。

ほんとうに子どもとは、

生まれた最初からもう、親不孝の名人であります。

だとすれば、爽やかな

五月の第二日曜日を、母の日といただくもよし、

我が誕生日、この世に出してもらった日を、母の日といただくもよし、

かもしれません。

いいえいいえ、その親不孝しかできない子を、

我が子よ、我が子よと大切に育て続けるのが親だと聞けば、毎日が親に感謝の母の日でしょう。

何に忙しいのか、私は慌ただしい日暮らしをしております。

「あつ、母の日って今日だった！」と当日に気づくことがしばしばです。

困った、どうしよう…、

そして、「お母さん、私

の母の日は一月遅れだからね。」と、五月の母の日はにつこり笑い、一月後の私の誕生日に「己が身の誕生の日は 母 苦難の日なり、お母さんありがとう」と高田管主の言葉に添えて、赤いカーネーションを贈っていました。

お母さん、調子のよい娘でごめんなさい

でも母は、我が子が母の日を忘れていたことも、調子よくはぐらかしていることも、すべて知っていて、なお、毎年「お母さん、はうれしいよ」と喜んでくれていたように思います。



五木寛之さんの「仏教へのたび」を読んで

— 籠谷 弘 —

私は高校時代仏教に触れました。

住んでいたのが京都という事もあり、自然に仏教青年会という会に入り、勉強と言うほどではありませんが、色々感ある年頃もあり、人生とは、人間とは、生きるとは、死ぬということ

は、など疑問ばかりの年代でしたので、仏教でそんな悩みが解決できればとの想いもあったのでしょう、真剣に念仏をしていたものです。座禅もしてみました。キリスト教にも興味を持ち、バイブルも読みました。創価学会の会合にも参加しました。真光さんの会合にも行きました。答えがほしかったからです。

慧能禅師がなぜ、当時の人々から支持されたのか、五木さんは、禅師が他の禅師と違って日々の中で座り、悟りが開けると初めて解いた人だからだそうです。常住坐臥ですね。その後法然上人が「易行」とい

う観念で、「易行念仏」という思想にたどり着いて、ナムアマミダブツ、と言う念仏を唱えれば誰でも往生することが出来ると説いたのですね。

その弟子の親鸞聖人のお歌に
“善人なおもて往生する、い
わんや悪人をや”
とおっしゃっています。意味深いお歌ですね。

人生は常住坐臥がもつとも大切と思っています。ですから私は、色々な宗派の教義には、賛同しても、教団には両手を挙げて賛同したことはありません。私たちの仏教青年会も色々なお寺をお借りして、勉強会、行、を行ってききました。なぜでしょうか。教義は間違っていないのにその人たちが集まって教団を作ると、教え主様と違った方向に行ってしまうのを見ているからです。

どこの教団でもそうです。またどうして異教徒だからと殺しあうのでしょうか。人間は自分に都合の良いほうに初期の教え

を変えてしまいか、それを口実に人を殺すのですね。そんな人を殺す等の教えはどの宗教でもありません。現代の人間が都合よく利用しているだけです。

人生を生きていく手段は、お金をある程度稼ぐことです。
人生の目的は、悟りを開くことです。

この二つを同時に毎日考え、実行していかなければなりませんから、生きるは大変ですね。
皆さん、死ぬまで、生きましよう。活き活きと生きましよう。
(自分に言い聞かせながら、そう思っています)

山ふたつ色とりどりに染めぬ
いて流れるもみじ渡月橋
本棚にとり残された古き本手
にとりめくる進まぬページ

会員趣味のホームページ
ひまわり畑作品集より

花見上げはずむ話に風もゆれ
笑顔笑顔の春だより

せかさされて暑さ寒さの友をつれ
先へ先へと流れゆく春

山口佳寿子

友は明日検査結果を聞くと
言う笑みつつ話し落ち着かぬ
は吾

祖母の忌に思いいたせり真
つ黒な鍋底磨く指の赤ぎれ

満開の桜に埋もれヒヨドリ
は淋しさ吐き出すギイとい
と声

光木和子

楽々亭 5月の予定
5月16日(火)
西京区役所洛西支所会議室
午後1時30分～3時30分
4月に開催した場所です。

楽々亭通信
発行元：NPO法人 没イチの会・京都
住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。